

「考え、議論する道德」の実現に向けた授業構想<中・道德>

特別研修員 道德 木幡 勇太（中学校教諭）

主題名 自己を見つめる
内容項目A-(3)向上心、個性の伸長

教材名 『ぼくにもこんな「よいところ」がある』

主題名 コミュニケーションの原点
内容項目B-(9)相互理解、寛容

教材名 『心にしみこむ言葉の力』

授業改善の視点

展開後段において、教材に登場した主人公の気持ちを理解させるために、体験的な活動を取り入れる。体験的な活動では、ペアになって、お互いの短所を長所に変えて伝え合い、「ぼく」の気持ちを共感できるようにする。

授業改善の視点

「よりよい人間関係を築くために、どんな気持ちが大切か」を考えさせる場面において、個人で考えてから班で話し合う。さらに、全体で意見を交流させたり、教師が問い返しをしたりすることで多面的・多角的に考えを広げ、深めさせる。

過程

主な学習活動（○発問 ◎中心発問）

導入

1. 本時で扱う道德的価値を想起し、問題意識をもつ。

○アンケートの結果から、どのようなことに気づきますか。

道德的諸価値についての理解を深めるために

- ・「長所と短所」についてのアンケート結果を提示し、長所よりも短所の方が多いことに気付かせる。
- ・なぜ短所の方が多いのかを考えさせることで、問題意識をもたせる。

自分の個性を更に伸ばすためには、何が必要だろうか。

1. 本時で扱う道德的価値を想起し、問題意識をもつ。

○自分の考えや気持ちが相手にうまく伝わらなかった経験はないだろうか。

道德的諸価値についての理解を深めるために

- ・アンケートの結果を提示し、うまく伝わらなかった原因を考えさせることで、問題意識をもたせる。
- ・問題意識を基にして、コミュニケーション（人間関係）で何が大切なのかを考えていくようにする。

よりよい人間関係を築くために大切なことは何だろう。

展開

2. 中心的な教材によって、本時で扱う道德的価値の追求を行う。

○「ぼく」の長所と短所は何ですか。

◎「ぼく」は、「これまでとは違って落ち着いた気持ちでいることができる」と感じたのはなぜだろうか。

○体験的な活動「短所も見方を変えれば長所になる」を行って、「ぼく」の気持ちを考えよう。



<ペアで活動している様子>

友達から「よいところ」を指摘され、自分の「よいところ」に目を向けた「ぼく」が自分を受け入れたため、他人の欠点も気にならなくなった心の変容について、問い返しをすることで押さえる。

物事を広い視野から多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深めるために

- ・主人公の気持ちを理解させるため、体験的な活動「短所も見方を変えれば長所になる」を行う。
- ・この活動を通して、生徒一人一人に自分の「よさ」に気付かせ、「ぼく」の気持ちを共感できるようにする。

2. 中心的な教材によって、本時で扱う道德的価値の追求を行う。

○「自分の気持ちを伝える」時に、池上さんが気を付けていることはどのようなことだろうか。

◎なぜ、池上さんはコミュニケーションの原点は「相手の話をよく聞くことだ」と言ったのでしょうか。

池上さんの考え方に対して、自分はどのように考えるのかを問い、道德的諸価値の理解を深める。

○よりよい人間関係を築くために、どのような気持ちが大切だと思いますか。



<班で意見交流をしている様子>

物事を広い視野から多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深めるために

- ・自分の考えを班の中で発表し意見交流をさせ、教師は班を回りながら生徒の意見に対して問い返すことで、物事を広い視野から多面的・多角的に考えさせる。

終末

3. 本時で扱った道德的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。

○自分の個性を更に伸ばすためには、どのようにしたらよいでしょうか。

人間としての生き方についての考えを深めるために

- ・今までの自分の考え方と体験的な活動を通して学んだことを基に、これからの自己の生き方や人間としての生き方を考えさせる。

3. 本時で扱った道德的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。

○よりよい人間関係づくりについて、今までの自分を振り返り、ワークシートに整理しましょう。

人間としての生き方についての考えを深めるために

- ・本時の学習を通して学んだことを基に、自分の考えを整理したり、友達の考えを聞いて自分の考えを見つめ直したりすることで、道德的価値のよさや大切さを考えさせる。

道徳科学習指導案

平成30年6月 第3学年 指導者 木幡 勇太

1 主題名 自己を見つめる 内容項目A－(3) 向上心、個性の伸長

2 教材名 『ぼくにもこんな「よいところ」がある』（出典：東京書籍）

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

中学校3年生になると、自己理解が深まり、自分なりの在り方、生き方についての関心がより高まってくる。自分の姿を自らの基準に照らして考えたり、他人との比較において捉えたりするために、その至らなさ一人思い悩むことも少なくない。そして、他人と同じように扱われることを嫌がり、反対に他人と異なることへの不安から個性を伸ばそうとすることに消極的になりがちである。そのような状況の中、自己の欠点や短所の追求にのみ偏ることなく、自己のすぐれている面に注目することを通して、自己受容と自己理解を深め、さらに伸ばしていくようにすることが大切である。

(2) 生徒の実態について

本学級の生徒は、自分の短所はたくさん出てくるが、長所については答えに戸惑ってしまう生徒が多い。自分では気が付いていない自分の長所について、友達から短所を長所に言い換えてもらい、自分の個性について改めて考え直し、長所や短所を含めた個性の伸長を図りたい。

(3) 教材について

本教材は、生活に密着した生徒作文であり葛藤教材である。「ぼく」は、真面目な自分に自信がなく、ついつい級友を非難してしまう。そんな「ぼく」が担任の先生の提案で行った一人一人のよいところを紙に書く活動を通して自己受容と自己理解を深めていく。さらに、「ぼく」が級友から「よいところ」を指摘され、自分のよい面に目を向けることができ、自分を受け入れたからこそ、他人の欠点も気にならなくなってきた心の変容を考えさせたい。

4 指導方針

○本時で扱う道徳的価値を想起し、問題意識をもつために

- ・導入において、事前にかかせた「自分の長所と短所について」のアンケートの結果を提示し、短所の多さに気付かせ、なぜ短所の方が多いのかを全体で考えさせることで、本時の課題につなげさせる。

○中心的な教材によって、本時で扱う道徳的価値の追求を行うために

- ・友達から「よいところ」を指摘されたことによって変化した「ぼく」の心の変容について、自分の考えを発表させ、全体で共有していく中で多面的・多角的に捉えさせる。
- ・「ぼく」の心の変容について、教師が全体で問い返ししながら、考えを深めさせていく。

○本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返るために

- ・体験的な活動「短所も見方を変えれば長所になる」では、友達の短所を長所に変えて伝えることで、自分の「よさ」に気付かせ、短所も見方を変えれば長所になることを理解させる。
- ・考えを整理させることによって自らを振り返り、これからの自己の生き方や人間としての生き方について考えさせる。

5 本時の展開

(1) ねらい

友達の見方の変化を「ぼく」の姿から考え、長所へと目を向ける体験的な活動「短所も見方を変えれば長所になる」を通して、自分の個性を更に伸ばしていこうとする心情を育てる。

(2) 準備

教師：アンケート用紙、アンケート結果の掲示物、ワークシート、リフレーミング辞典

(3) 展開

学習活動と発問	時間	予想される生徒の反応	指導上の留意点
<p>1 アンケートの結果を見て長所と短所を比較して、問題意識をもつ。</p> <p>○アンケートの結果から、どのようなことに気づきますか。なぜ短所の方が多いのでしょうか。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black;">自分の個性を更に伸ばすためには、何が必要か。</p>	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・長所が少なく、短所が多い ・短所が多いのは、自分だけでない。 ・自分に厳しいから。 ・自分に自信がないから。 ・自分の長所が分からないから。 	<ul style="list-style-type: none"> ●事前に「自分の長所と短所について」アンケートをとり、その結果から問題意識をもたせる。 ●短所も長所になるという見方に気付かせるため、短所を長所と言い換えられるものは、上下に並べて提示しておく。
<p>2 ぼくにもこんな「よいところがある」を読んで、「ぼく」の心の変容について考える。</p> <p>○「ぼく」の長所と短所は何ですか。</p> <p>◎「ぼく」が「これまでとはちがって落ち着いた気持ちでいることができる」と感じたのはなぜだろうか。</p> <p style="border: 1px solid black;">考える過程</p> <p>個人(ワークシート)→ペア→全体</p> <p>○体験的な活動「短所も見方を変えれば長所になる」を行って、「ぼく」の気持ちを考えよう。</p> <p style="border: 1px solid black;">体験的な活動の流れ</p> <p>個人(ワークシート)→全体(模範演技)→ペア→全体(比較・検討)</p>	15分	<ul style="list-style-type: none"> ・真面目、責任感がある、努力家、前向き、冷静 (長所として) ・真面目過ぎる、協調性がない、マイナス思考、人の嫌な点を見る (短所として) ・友達から自分の「よいところ」を指摘されて、自分に自信がもてたから。 ・友達の「よいところ」を見ようとする大きな心がもてたから。 	<ul style="list-style-type: none"> ●自分が感じた「ぼく」の長所と短所について、素直な気持ちを発表させる。 ●板書によって、長所と短所が表裏一体であることに気付かせる。 ●友達から「よいところ」を指摘され、自分の「よいところ」に目を向けた「ぼく」が自分を受け入れたため、他の人の欠点も気にならなくなってきた心の変容を、問い返しをすることで押さえる。
<p>3 体験的な活動によって、気付いたことや再認識したことを、ワークシートに整理する。</p>	10分	<ul style="list-style-type: none"> ・自分では、気が付かなかった長所を指摘してもらって嬉しい。 ・友達の短所を長所に変えて、直接伝えることができた。 ・短所も見方を変えれば長所になることが分かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●学級全体で教師が模範演技をしてから隣のペアで体験させる。 ●ペアを交換してもう一度行い、多面的に考えられる機会を設ける。 ●短所を長所に変換しづらい生徒は、リフレーミング辞典(プリント)を与えて考えさせる。
<p>3 体験的な活動によって、気付いたことや再認識したことを、ワークシートに整理する。</p>	10分	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の短所を長所にしていきたい。 ・短所の見方を変えていきたい。 ・長所も短所も自分の個性であり、自分の「よさ」を更に伸ばしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●今までの自分の考え方と本時の学習で考えたことを基にして、これからの自己の生き方や人間としての生き方を考えさせる。

(4) 評価の視点

○体験的な活動の友達との対話により、個性の伸長について、多面的・多角的な見方へと発展しているか。

○体験的な活動やワークシートへの整理により、個性の伸長について、自分自身との関わりの中で深めているか。

指導例：主題名 自己を見つめる A-(3)向上心、個性の伸長

教材名 『ぼくにもこんな「よいところ」がある』（東京書籍）第3学年

ねらい：友達への見方の変化を「ぼく」の姿から考え、長所へと目を向ける体験的な活動を通して、自分の個性を更に伸ばしていこうとする心情を育てる。

過程

主な学習活動（○発問 ◎中心発問 ◇問い返し）

導入

1. 本時で扱う道徳的価値を想起し、問題意識をもつ。

- アンケートの結果から、どのようなことに気がきますか。
- S：短所が長所よりも多い。
- S：長所と短所に同じものがある。
- T：なぜ短所の方が多いのでしょうか。
- S：自分に自信がないから。
- S：自分の長所が分からないから。
- T：今日の授業では、個性について考えてみましょう。

自分の個性を更に伸ばすためには、何が必要だろうか。

短所

うるさい
飽きやすい
人に厳しい
負けない
嫌いな
ネガティブ
優柔不断
マイペース
集中力がない
協調性がない
自信がない
怒りっぽい
人や物にあたる

指導のポイント

問題意識

- 「長所と短所」のアンケート結果を提示し、長所よりも短所の方が多くことに気付かせる。
- なぜ短所の方が多くのかを考えさせることで、問題意識をもたせる。

展開

2. 中心的な教材によって、本時で扱う道徳的価値の追求を行う。

導入で考えた長所と短所について考えさせたことを基にして、主人公「ぼく」の長所と短所を考えさせる。

- 「ぼく」の長所と短所は何ですか。
- S：長所は、真面目なところだと思う。
- S：短所は、人の嫌な部分ばかり見ているところだと思う。
- ◎「ぼく」は、「これまでとはちがって落ち着いた気持ちでいることができる」と感じたのはなぜだろうか。
- S：友達から自分の「よいところ」を指摘されて、自分に自信がもてたから。
- ◇なぜ、自信がもてたのでしょうか。
- S：自分が友達から認められているということに気付いたから。
- ◇友達から認められると「ぼく」はどのような気持ちになりますか。
- S：嬉しい気持ちになる。
- S：前向きな気持ちになる。
- S：友達の「よいところ」を見ようとする大きな心もてる。

- 体験的な活動「短所も見方を変えれば長所になる」を行って、「ぼく」の気持ちを考えてみよう。
- S：「集中力がない」というのは、見方を変えると「好奇心がある」ということだね。趣味がたくさんあるよね。
- S：「怒りっぽい」というのは、見方を変えると「情熱的」だということだね。部活動に熱心に取り組んでいるよね。
- S：そんな風に言ってもらえて嬉しい。「ありがとう。」
- S：頑張っていることが認めてもらえてよかった。

体験的な活動

- 主人公の気持ちを理解させるために、体験的な活動「短所も見方を変えれば長所になる」を行う。
- この活動を通して、自分の「よさ」に気付かせ、「ぼく」の気持ちに共感できるようにする。

活動の手順

- ①個人でワークシートに自分の短所だと思っていることを記入する。
- ②学級全体で教師が生徒と模範演技を行う。
- ③隣同士のペアで役割演技を行う。順番を決め、交代して行う。
- ④前後のペアでもう一度役割演技を行う。
- ⑤学級全体で比較・検討する。



<模範演技をしている様子>

終末

3. 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。

- 自分の個性を更に伸ばすためには、どのようにしたらよいでしょうか。
- S：短所を長所にしていきたい。
- S：短所の見方を変えていきたい。
- S：自分にはよいところがないと思っていたけれど、今日の授業を通して、自分が短所だと思っていた中にも、もしかしたらよいところかなと思うことが見つかったのがよかった。
- S：自分にとって短所もあるけど、それも含めて自分の個性だと思うので、よいところをもっと伸ばしていきたい。

振り返り

- 今までの自分の考え方と本時の学習で考えたことを基にして自らを振り返り、これからの自己の生き方や人間としての生き方を考えさせる。

評価の視点

- ・体験的な活動の友達との対話により、個性の伸長について、多面的・多角的な見方へと発展しているか。
- ・体験的な活動やワークシートへの整理により、個性の伸長について、自分自身との関わりの中で深めているか。